

2021 年度

金沢大学教職大学院

オンラインフォーラム 報告書

<テーマ>

新しい時代の教育実践の探究

	(頁)
◆ はじめに	1
◆ 全体会	5
「教職大学院の取組」	
◆ 実践発表	7
「院生（修士2年）の修了研究グループ討議」	
◆ 実践構想	19
「院生（修士1年）の研究テーマ」	

はじめに

研究科長 大谷 実

教職大学院は、教育委員会との連携のもとで高度な専門職業人としての中核教員を育成するために、地域の特性や教育課題に照らして、特色あるコースやプログラムを開設し、質・量ともに発展期を迎えております。金沢大学教職実践研究科では、「理論と実践の往還」というミッションを「教職実践知の交流拠点の形成」を通して実現しようとしています。本研究科は、学校マネジメントと学習デザインの両コース、現職院生と学卒院生、すべての学校種の実践知が交流して反省的な実践共同体を形成することで、石川県の教育の発展に寄与する高度な専門職業人を輩出することを目指しております。本研究科設立から6年が経過しましたが、当初から優れた中核教員をご推薦くださる石川県教育委員会からの絶大なるご支援、県内の市町教育委員会、現職教員院生の在籍学校や連携協力校、様々な学外のステークホルダーからの惜しみないご協力を賜り充実した研究科運営ができており、関係の皆様から心から感謝を申し上げます。

本研究科は、教職大学院運営協議会などにおいて石川県教育委員会と協議をしつつ、石川県の教職員育成指標に基づく幅広い職能ステージに応じた高度専門職の育成、例えば「若手教員育成プログラム」を推進する中堅的なリーダーの育成に資する研究にも積極的に取り組んでおります。さらに、校長会や地域の企業体の識者からなる教育課程連携協議会におけるご意見を踏まえつつ、新しい時代を見据えた高度な教育実践力の育成、例えば課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に取り組む探究的な学びの推進、地域や社会とともに多様な人々との共生社会を目指す学校マネジメントの在り方、GIGAスクール構想の実現のモデルとなるICT機器を活用した先進的な学習手法の開発にも取り組んでおります。

本研究科では2年間の学修の成果を「金沢大学教職大学院フォーラム」として年度末に開催し、全国・地域・県内の関係者の皆さまに対面にて公開してまいりました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、一昨年は中止とし、昨年度はコロナ禍のもとでの遠隔授業の経験をいかしオンラインで開催しました。本年度も新しい時代の教育の在り方も模索しつつ、「新しい時代の教職実践の探究」を主題として、さる3月5日にしましたところ、修了生が1年次にお世話になった附属幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校の先生方や、2年次にお世話になった各連携協力校の先生方、石川県教育委員会、県内外の教育機関等から多数の方々にご参加いただくことができました。コロナ禍が続く状況におきまして盛大なフォーラムとなったことは教職大学院教員一同そして院生一同にとって嬉しい限りでした。

今回のフォーラムでは、研究科長からフォーラムの趣旨並びに本研究科の特色ある教育活動の一端が紹介されました。今回のフォーラムでは、2年次院生12名が各自の修了研究について4つのグループに分かれてオンライン形式で発表を行い、全国からの参加者、修了生が学校実習等でご指導をいただいた各連携協力校の先生方、そして附属学校園の先生方のご参加のもと、活発な質疑応答がなされ、講評として石川県教育委員会指導主事及び県で指導的役割を担っておられる管理職の方々よりご指導・ご助言者をいただきました。また、1年次院生は、各自の研究主題をクラウドでオンライン公開し、ご指導・ご助言を賜る機会を設けました。

本報告書はフォーラムの全日程について当日の記録を留めるとともに、1年次院生が作成したポスターを収録し、本研究科が希求する教職実践知の交流拠点というテーマについて広くご意見を寄せていただくことや、教職大学院が全体として直面している課題や今後の展望を考えるための礎石となるようにという願いを込めて刊行したものです。是非お目通しいただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。

最後になりますが、今回のフォーラム開催にあたり後援をいただいた石川県教育委員会ならびに石川県市町教育委員会連合会、そして金沢大学事務部の皆様には格段のご支援とご協力を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

2021年度 金沢大学教職大学院オンラインフォーラム

新しい時代の教育実践の探究

日時 令和4年 3月5日(土)
13:00~16:10 [受付]12:30~

方法 オンラインリモート
(Zoomによる)

プログラム

- 12:30~13:00 受 付 (ミーティングルームへの入室)
- 13:00~13:25 全 体 会 (教職大学院の取組)
- 13:35~16:10 実践発表 (2年次院生12名)
(ミーティングルームごとの終了)
- 4つのミーティングルームに分かれて発表
- ・ラウンド1 (4名) 13:35~14:20
 - ・ラウンド2 (4名) 14:30~15:15
 - ・ラウンド3 (4名) 15:25~16:10

参加費
無料
事前申込み必要

	ルームA	ルームB	ルームC	ルームD
ラウンド1 / 13:35~14:20	発表者1	発表者2	発表者3	発表者4
ラウンド2 / 14:30~15:15	発表者5	発表者6	発表者7	発表者8
ラウンド3 / 15:25~16:10	発表者9	発表者10	発表者11	発表者12

※発表者及び発表内容については裏面をご覧ください。発表者がどの番号になるかは、後日お知らせいたします。

※1年次院生発表 (YouTubeによる動画配信)

お申込み
方法

参加を希望される方は、Webサイトの専用フォームからお申込みください。
<https://pdte.ed.kanazawa-u.ac.jp/forumregisterr4>
【申込み締切】令和4年2月25日(金)



写真提供：金沢市

【主催】金沢大学大学院教職実践研究科 (教職大学院)

【後援】石川県教育委員会 石川県市町教育委員会連合会

【お問い合わせ】金沢大学人間社会系事務部総務課 TEL: 076-264-5448

E-mail: n-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp <https://pdte.ed.kanazawa-u.ac.jp/>

2021年度 金沢大学教職大学院オンラインフォーラム 新しい時代の教育実践の探究

実践発表は、4名ずつ3回に分けて行います。

参加する際は、発表者の所属するミーティンググループにアクセスして、ご参加ください。

参加の申込みをいただいた方には、後日各ミーティンググループと資料閲覧のURLを、メールにてお送りいたします。

実践発表内容

	発表者	研究テーマ〈変更される場合があります〉
学 習 デ ザ イ ン	詩丘 萌 (学部卒)	高等学校数学科における教科と探究の融合 ～RMEとSRPの視点をもとにした授業開発～
	若瀬 彩芽 (学部卒)	個の思い・願いから気付きを深め、共に学びを高め合う生活科の実践研究 ～みんなでつくるけん六オリンピック～
	大須賀 功 (小松大谷高等学校)	高等学校における「力」に対する概念形成のための理科の授業と教材
	芦原 純子 (能美市立寺井小学校)	問いを持ち自分の考えを見直し改善する子の育成 ～算数科での問いと見方・考え方が創発する授業サイクルの構築～
	小松 美歩 (金沢市立小將町中学校)	積極的に英語でコミュニケーションをしたくなる授業設計 ～伝えたい気持ちをベースにした授業の試み～
	富澤 礼乃 (津幡町立井上小学校)	自分なりの見方・考え方を生かし数学的な見方・考え方を働かせる授業 ～日常の世界と算数の世界をつなぐ教師の支援の在り方～
	福嶋 康晴 (野々市市立館野小学校)	児童の主体的な学習のための、実験計画を立案する力の育成を目指した理科学習
	舟木 慎治 (金沢市立千坂小学校)	子どもが学び方を自覚化するための授業研究
	吉川 尚吾 (石川県立いしかわ特別支援学校)	自閉症児と私の中に「～したい」が生まれる過程に関する考察 ～遊びの活動の実践を通して～
学 校 マ ネ ジ メ ン ト	上提 奨悟 (石川県立金沢向陽高等学校)	多元的生成モデルに基づいた学年団の相互的主体変容を促す取組 ～学年会議の運営を中心として～
	久野 恭子 (金沢市立兼六小学校)	小学校における生徒指導の協働体制づくり ～ノットワーキングの組織をめざして～
	山上 佳織 (石川県立門前高等学校)	高等学校における「対話型初任者研修」が教員の「やりがい」にもたらす影響

全 体 会

「教職大学院の取組」

【発表者】

大谷 実 （金沢大学大学院教職実践研究科長）

教職大学院の取組

司会： 本教職大学院の取組について研究科長の
大谷がご紹介します。

大谷： それでは、本教職大学院の取組につきまして、研究科長の方から簡単ではございますが、ご説明を申し上げます。

本研究科の特徴としましては、たくさんの学部・研究科を擁する総合大学の特性を活かして、高度な教職実践知の開発を目指した教育プログラムを提供しております。また、すべての授業で研究者教員と実務家教員が共同で授業を行っており、きめ細やかな指導にあたっているという点がございます。

本教職大学院は学卒院生が5名、現職教員が5名からなる学習デザインコース、それから現職教員5名からなる学校マネジメントコース、計15名が1学年を構成しております。カリキュラムでは、子どもの豊かな学びと成長を支えるための力量形成を目指しており、1年次では、いわゆる共通5領域の科目に加えて、学習デザインコース及び学校マネジメントコースのコース科目を履修しています。それに加えて、金沢大学の特色あるグローバルスタンダードとなるGS科目を履修することになっております。

また1年生、2年生が共に学び合う総合科目として、実践カンファレンス、そして院生各自の実践研究を視点においた専門研究というのを2年間続けていくことになっております。

1年目は附属学校5校園で学校実習を行い、2年目は石川県からご提供いただいている連携協力校で学校実習を行っております。このようなかたちで理論と実践の往還を図っております。

先ほどご紹介しましたグローバルスタンダードというのは、金沢大学ブランドの学生を育成するという目的で設計されており、本教職大学院としましては「社会の担い手としてのヴィジョン探求」という授業を開講し、また「研究者倫理」という授業を必修にしております。「社会の担い手としてのヴィジョン探求」というのは、よりよい社会の

形成に主体的に取り組む人材を育成するというこ
とを主題にし、社会と連携した未来創造のヴィジ
ョンを、他者との対話を通して探求するというこ
とを授業の目標としております。授業ではゲスト
スピーカーとして社会の様々な分野でご活躍され
ている方をお招きし、そのお話をもとに院生自身
の未来創造のヴィジョンを共に探求しております。
社会と繋がって生きること、より良い未来社会を
形成していくことに自覚を持つための貴重な動機
づけの場となっております。

金沢大学は、全国でも珍しいのですが、特別支
援学校から幼稚園、小学校、中学校、高等学校も
含め5校園を揃えており、1年次にはそれらの附
属学校園で学校実習を行っております。

今の2年生が入学した時には、新型コロナウィ
ルスの感染が拡大しておりまして、オンラインと
いうかたちを取りながらも、さまざまなICTを駆
使しながら授業を進めてまいりました。例えばジ
ャムボードを使ったり、あるいは大学が持っている
学習システム、LMS (Learning Management
System) というものを駆使したりしながら、ある
いは遠隔のこのようなソフトウェアを使いながら
対話を絶やさず、共同の和を出来るだけ広げるこ
とを旨として頑張っておりました。

また、北から南に長い石川県では雪の日の時な
どは、対面授業を行いつつ、遠隔の方には Zoom
等で参加いただくというハイブリッド型の授業も
試みてまいりました。大学のコロナウィルス対応
活動指針が少し緩んで対面授業になった時には、
皆さんの笑顔が溢れました。密を避けつつ、改め
て学び合う喜びを実感していた時でもございま
したが、概ね遠隔をせざるを得ない学びを今の2
年生は経験しました。

今年度に入りましたら、対面が主になりまして、
4月から対面のオリエンテーション、そして総合
科目の実践カンファレンスを、密を避けるため大
きな部屋を借りながら、専門研究も含めて実施し
てまいりました。

また、実務家の先生には現代教師論という名称
の新しい授業を立ち上げていただき、実務家の先

生方の経験をもとに大変興味深い授業を提供することも出来ました。

また、ICTの専門家の方に遠隔の授業を行っていただきながら、このような時代のオンラインも含めたコロナ対策をすることが出来ました。

他方で、地域に出掛けて行く、地域教育実践という授業を、近くの金沢市立夕陽寺小学校、ICTモデル校ですけれども、此処に訪問させていただき、学校長のお話を聴かせて頂いたり、子ども達がICTを使っている様子を見学させて頂くことが出来ました。また、附属幼稚園ではマネジメント研修を共同で開催させて頂くことも出来ました。

2年生の方は、ご自分の実践研究に取り組み、全員が集う合同カンファレンスでその成果を発表し、つづく分科会において議論を深め、更なる実践の進展に取り組んで参りました。

夏休みには修了生を迎えてのフォローアップの日を設けまして、GIGAスクール構想を受けたICT活用を主たるテーマにして、同窓生を交えての情報交流や議論の場を設けることが出来ました。

9月になりますと中間発表会が開催されました。研究の途中経過を皆で共有し、その後の分科会では、議論の掘り下げをして参りました。

1年生は学校実習を附属学校園行います。これらの写真はその1コマ2コマですけれども、附属学校園のご協力のもとでコロナ禍での学校実習を無事に終えることが出来ました。また学校実習を終えたのちには、それを振り返る時間を大学にて対面で設けることが出来ました。

後期は対面での授業をすることも出来ておりましたが、やはり感染防止対策が本研究科運営の大変重要な関心事になった1年間でした。

他方で、学校訪問というものを続けながら、石川県下において特色ある教育カリキュラムを実施している石川県立金沢錦丘中学校を訪問させていただきました。廊下越しに授業を参観したり、学校長先生から学校の運営についてお話を伺ったりしました。中高一貫校ですので、高等学校を別の月に訪問させていただいて、中高一貫校の特色を学ぶという経験をさせていただきました。

11月の後半には合同のカンファレンスを行い、1年生と2年生が実践研究について其々の成果をまとめる作業へと入って行きました。

そしていよいよ2年生は最終報告会、1年生は折り返し地点となる中間報告会に向けての活動となります。スライドでは最終段階に入っている2年生の真剣な姿、1年生も折り返し地点で研究テーマに悩みつつゼミを行っている様子が見て取れるかと思えます。非常に真剣な様子が、この辺りから肌で感じる事が出来るわけでございます。

中間報告会と最終報告会は二日間に分けオンライン形式で行いました。2年生は、これは本研究科の端崎特任教授の言葉ですが、理論と実践の往還ここにありという感じで、お一人お一人の2年生が自分の研究について2年間にわたる理論と実践の往還の成果について、みごとな最終報告会を行うことが出来ました。

本日はその報告会を踏まえて、全国の皆さま、そして石川県の皆さまに公開のかたちでフォーラムを開催させていただき、また1年生はYouTubeによる動画配信で各人の研究テーマを公開し、皆さまからご指導を間接的にいただくという機会を設けさせていただいております。

本日は長い時間になりますけれども、それぞれの発表に対しましてご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます、本研究科の取組とその特色についてご説明を終わりたいと思います。